会　議　録

名　　称	令和５年度　第３回　登米市部活動地域移行等検討委員会
開催日時	令和６年３月１９日（金）　午後１時５８分　開会　午後４時１８分　閉会
開催場所	中田生涯学習センター　学習室
出 席 者	○　登米市小学校長会長（登米小校長）　秋葉　徹 ○　登米市中学校体育連盟会長（豊里小中校長）　長倉　清敬　（会長） ○　特定非営利活動法人登米市体育協会　会長　関　壮一　（副会長） ○　登米市陸上競技協会　会長　飯塚　敏郎 ○　登米市バスケットボール協会　副会長　芳賀　昌幸 ○　登米市サッカー協会　３種育成部長　尾上　健 ○　登米市野球協会　会長　工藤　初夫 ○　登米市ソフトテニス協会　事務局　佐藤　孝 ○　登米市卓球協会　会長　門脇　昭雄 ○　登米市ソフトボール協会　理事長　鈴木　正彰 ○　登米市剣道連盟　会長　熊谷　敏明 ○　とめ漕艇協会　副理事長　冨士原　勝彦 ○　登米市スポーツ少年団本部　本部長　木村　健喜 ○　登米市総合型地域スポーツクラブ連絡協議会長　佐々木　悦郎 ○　元中学校美術教諭　主任児童委員　及川　英之
事務局等職員 職・氏名	○登米市教育委員会 次長兼学校教育管理監　飯川　弘芳 学校教育課長　猪股　勝徳 生涯学習課長　守屋　乃扶子 活き生き学校支援室長　林　宏也 指導主事　金田　弘子
会議内容	１　開会 ２　会長挨拶　会　長　長倉　清敬 ４　報告・説明 （１）児童生徒、保護者、教職員へのアンケートについて （２）登米市部活動地域移行の方向性について ５　協議 ○　登米市中学校体育連盟会長（豊里小中校長）　長倉　清敬 ・　アンケートの説明を受け、「楽しくやるとか」「体力を向上させる」ことを望んでいるというところが、児童・生徒や保護者の教職員の共通の認識になったという印象を受けた。 ・　個人的には、子供たちが部活動の時間が短いと思っていることが意外であった。 また、先生方の考え方として、多くの割合で負担感を感じていることが分かった。委員の皆さんからのご意見をいただきたい。 ○　登米市スポーツ少年団　本部長　木村　健喜 ・　学校の先生たちは、概ね地域移行に賛成であることがよく分かった。しかしながら、私自身は、もう少し部活動の地域移行に関わりたいと考えている先生が多いものと期待していたので残念に思っている。 ・　活動時間が短いと子供たちが感じている理由としては、多分今の時期だからと推測される。あるいは、子供たちのアンケートから感じ取れるのは、一生懸命こうやりたいという意欲的な意見であると思われる。一方で反対側の子供たちもいると思うが、 そういった内容は見えてこなかった。

・　全体的には、子供たちや保護者の方については、情報が行き届いていない印象を受けた。そういう意味では、もう少し時間が経った際にアンケート取れば、また違った答えが 出てくると感じた。

・　会議の進め方によっても色々変わってくると思われる。概ね、それぞれのアンケート結果を見ると、ある程度のことは分かったのでよかった。

○　登米市中学校体育連盟会長（豊里小中校長）　長倉　清敬

・　続いて、事務局の方から今後の方向性について説明をしていただきたい。

（事務局）

→　資料の方には、登米市部活動地域移行についてのパンフレットの案を示したが本来であれば、十分に議論を重ねた上で提示の必要があると認識している。そのことから、今回のアンケート結果を踏まえた現時点での内容であり、こういうところも盛り込んではどうか、 こういう考え方もあるのでは、というような忌憚のないご意見をいただきたい。

→　ご意見をいただいた上で、来年度以降に設置する部活動地域移行準備委員会の方で議論を重ね、周知していければと考える。パンフレットには、地域以降の意義や方向性、指導者、 参加の仕方、費用についての内容を載せている。今回のアンケート結果から、部活動地域移行の内容が理解されていないということから、まずは、簡潔に部活動地域移行の内容が理解できるパンフレットを周知して行く必要がある。見通しとしては、パンフレットついては来年度を目標に周知をした上で、より詳細なガイドラインを作成して、令和 7 年度につながるような形にしたいを考えている。

→　スポーツ省のパンフレットには、休日の部活動地域連携地域を始めるにあたり、少子化による部活動の減少等の課題を踏まえながら地域移行を進める必要性について述べられている。

→　登米市の部活動地域移行を進める上での体制案の１つ目として、部活動地域連携も考えられる。 地域連携というのは、複数の学校でまとまって１つの活動とする合同部活動の導入である。部活動指導員、地域の人材を活用することによって学校で運営し、子供たちの活動機会を確保するものである。現在でも人数が足りない学校同士で合同の部活動ということで実施している。気仙沼市や東松島市では合同の部活動ということで、部活動の地域移行を見据えながら陸上の練習だったりサッカーの練習だったりを休日合同で実施している。こちらの方については教職員も携わっており、徐々に合同の活動から地域の指導者にお願いするという方向で進んでいる。こちらについては、地域の多様な主体が運営、実施する地域クラブ活動によって部活動を代替するものである。なお、地域クラブ活動であるということであれば大会の参加も可能となる。

→　体制案の２つ目として、各団体が学校とも連携するために、指導方針等で十分に話し合った上で 実施していく内容である。実際、地域移行になれば学校と地域クラブが連携して進めていくと思われる。その中で、あくまでも案であるが、 例えば体育協会の方で指導者を派遣しながら地域クラブを立ち上げていく際に、その指導者が学校を複数校集めたり、単独の学校で可能であったりするのかどうかを判断しながら進めていく。メリットについては、専門的に指導に携わった方々の派遣が可能であり、協会主催の地域クラブから巣立っていった子供たちが将来協会の運営に携わる可能性があることで、協会の発展や継続に向けた１つのいい転機になるのではと考える。

	→ 続きまして、スポーツ協会とありますが、これについては文化活動の方も同じである。例えば登米市には９つの総合型スポーツクラブがあるが、そちらの方で、例えば、競技協会やスポーツ少年団と協力して指導者を派遣して地域クラブをつくることが可能であると思われる。また、生涯スポーツを中心に行っているスポーツクラブが多いが、当然加盟した方からは会費をいただいて総合型スポーツクラブの運営をしている。その会費の一部を地域クラブ活動で消費しますよということで、運営の経費に当てることもできると考える。そして、スポーツクラブで持っている施設の利用については、地域クラブ活動とスポーツクラブの事業として行うことができると、施設の確保も容易となる。スポーツクラブについては、職員の皆様に利用調整をしていただくことも考えられる。そして、地域クラブ活動ということで会員が増えれば、スポーツクラブの会員も増えていくとうメリットも想定できる。しかしながら、このような案については、そういったノウハウを持っていないとなかなかできない部分もあるので、例えばどこかのスポーツクラブで、そういった取り組みを先行実施し、それを次につなげるような形で広げていくことで、実現可能になると思われるので、今後検討していく必要がある。 → 登米市のスポーツ少年団については、部活動の約７割の種目で活動している。平日の夜間練習や土日の活動を行っているので、すでに地域移行になっていると言っても過言ではない。しかし、先ほどの地域移行のアンケートの中に、「部活動と同じ種目に入りますか」という質問に対して、「入りません」という回答があった。 ということもあり、部活だけに入部して、スポーツ少年団に入っていないお子さんもいる。スポーツクラブの方で地域移行のクラブを受けますとなった場合に、そのようなお子さんも参加する可能性がある。そうした場合については、現在、スポーツ少年団で指導している部分と、 そういった同じ種目をやってはいないお子さんの指導もしていく必要があるが、そのようなお子さんが興味を示せば今度はそのスポーツ少年団に入っていくということで、人数の増加が期待でできる。ただ、スポーツ少年団の方でも独自の指導のガイドラインということで色々と決めている部分もあります。例えば、練習時間が長いという内容がアンケート結果からも見受けられます。地域移行を引き受けていただける際には、これから定めるガイドラインの方針に則って土日のどちらかを地域移行クラブということでご協力いただきながら子供たちを育てていく方向性も考えられる。 → それ以外には、例えば自主的に地域の中で 指導者を見つけて、地域クラブでやりましょうということも可能だと考える。ただ、この方法については継続の問題が出てきますので、今後の将来性を見据えながら地域クラブとして承認していく必要がある。 → 方向性を多々話したが、１番の問題点は、指導者の経費をどうするのというところとなる。今現在、部活動でも、ほとんどの部活動は保護者会があり、自分たちの移動の経費や部費というものを集めながら運営している。そういった経費をどの程度、指導者の方に回せるかとか、あとは、どのくらい地域移行を行っていく上でお金がかかっていくのということを次年度の準備委員会で確認しながら進めていく必要がある。 ○ 登米市総合型スポーツクラブ連絡協議会長　　佐々木　悦郎 ・ 今説明を受け総合型ということが出されたが、９つあるスポーツクラブは今現状としては大変苦しい状況である。この地域移行を進めるとなれば更に負担が掛かる。謝礼や土日の移動、保険、 家族への負担も考えられる。そういう面からすると、重い責任を負わせられるという思いがある。そういった場合の最終的な責任はどうなるのか。

	（事務局） →　最終的な責任ということになるが、 その地域クラブの運営となれば、保険に当然加入するので、何か大きなことがあれば保険の対応となる。また、指導者が問題を起こしたとなれば、学校または教育員会の方で処罰等を考えていく必要がある。総合型スポーツクラブの方でもどうやっていけば１番いいのかなというところは現時点で難しいところはあると思われる。例えば、総合型スポーツクラブだけでは当然難しいところもあるので、スポーツ協会や体育協会、スポーツ少年団とも協力していきながら取り組んでいく必要がある。 →　私は現在、登米のスポーツクラブに子供さんを加盟させていただき、その中でクラブチームを立ち上げて実際活動している。 バスケットボールをやりたい子供たちを集めた上で、スポーツクラブの方に登録していただき、週 1、2 回程度活動をしている。指導者についてはボランティアで行っており、何か地域貢献できないかなというところで実施している。報酬が関わってくると、こちらの責任も重くなると思われるので、その辺については今後具体的に考えていく必要がある。 →　大会等についてはその指導者が 責任を持ってついていくが、当然、会場が他の市でやる場合には、送迎については保護者となる。会場につけば引き渡しを受けて、試合や練習をする。帰宅については、会場で引き渡をして、保護者の責任のもとに帰宅するというような流れとなる。これは、スポーツ少年団の方でも同じような方法である。 →　あくまでも案であり、どういった方向でやれるのかっていうことが大切である。今後、こちらから一方的にお願いしますということではなく、こういった方向もありますよということでご説明していきたいと考えている。 ○　登米市ソフトボール協会　理事長　鈴木　正彰 ・　単純なことかもしれないが、地域クラブのイメージが湧かない。例えば説明があった内容で、地域クラブをつくっていく際に誰がつくるのか。学校が要望して地域クラブをつくるのか。具体的に誰がどのような方法で始めるのか。今、我々の団体みたいなところに要望をした上でという話も出たかもしれない。そういう我々の団体が、ソフトボールのチームをつくりますというような始め方なのか。初歩の初歩だと思うが、その受け皿的なものは誰がどこで、どのようにしてつくっていくのか。そのようなことを踏まえて指導者やお金の問題が出てくるのではいか。いずれにせよ、具体のところがあれば教えていただきたい。 （事務局） →　具体的な誰がつくっていくかについては、例えば今、部活動に携わっている外部指導者の方がいる学校については、土日は部活動を行わなくなった際にその指導者の方に教育委員会や学校からお願いをする形になることが考えられる。 →　もう一つは、 例えばソフトボール協会の方に窓口となる機関が土日どうしても練習をやっていきたいという旨を相談し、紹介をしていただく方法も考えられる。 →　１つの学校ではなくて、どうしても人数が少ないので 3 つくらいの学校を集めてやっていきたいと いうことであれば、それらの学校の考え方を取りまとめた上で、各団体に相談をしていくという方法も考えられる。

	○　登米市ソフトボール協会　理事長　鈴木　正彰 ・　平日は学校で部活動を継続してやっていくというような話であるが、大会などは土日だと思われる。そういう場合、先生方はつかないのか。 そうすると、その時には地域クラブの指導者だけ行くという形になるのか。 （事務局） →　平日については、継続して行われています。中体連に学校として参加する場合は、多分先生方の土日については参加できると思われる。しかしながら、例えば競技協会が主催の大会については、部活動の先生が携わっていないので、地域クラブの指導者が引率するような形となる。 →　平日に部活動をやっていれば、どこかで練習試合をしたいとなった際に、平日は当然移動することはできないので、 例えば、特例で土曜日が部活動と認められれば、そういったことも可能となると思われるが、これについては今後どうなっていくかは検討が必要である。また、中体連については現在、検討中ということもありますので今後具体的な内容が示されると思われる。 ○　登米市中学校体育連盟会長（豊里小中校長）　長倉　清敬 ・　中体連の情報であるが、令和６年度については県内では２８団体の地域クラブが中体連に出場する。その中で サッカーと卓球とバドミントンについては郡市の中体連の予選会を省いて、県中体連に参加することを認めている。たまたまバドミントンと卓球は１チームしか登録団体がなかったので、 そのまま県大会に出場となる。サッカーは３競技団体であったため３チームで試合を行い、優勝チームが県大会に出場する いうことになる。現在はこのような状況であるが、今後クラブチームが増えていくことも考えられる。 ・　パンフレットに示されていたが、平日に部活を行い週末は大会に出場しようとしても人数がそろわないという現状である。そういった部活動は自然淘汰され廃部になる。そのようところが発端となっての部活動の地域移行というところなので、 学校の活動で平日は基礎練習とかそういうのができたとしても、大会に出場できるわけではないという現状である。 ○　登米市ソフトテニス協会　事務局　　佐藤　孝 ・　テニス教会の方では、子供たちをメインにした考えがある。先生方の土日の参加の有無が強調されているが、先生方をメインにして考えるのではなく、子供たちに目を向けたい。保護者からの相談で、外部コーチがいる学校はよいが、そうでない学校が半分近くあり練習方法が分からない。部活動の時間は、ただ ボールを打って帰ってくるのでどうしたらよいか教えてほしいという相談であった。もし可能であれば、学校にきて教えてもらえないのかという要望があり、それは学校と自分の時間が合えばということでお伝えした。私と部活動の時間が合えばということではあるが、学校と相談しながら、練習方法やテニスの楽しさを伝える場を持ちたい。 ・　協会のスタッフとの話の中で、県、東北、全国大会に行きたいという子供や、テニスがせっかく好きになったのだからテニスを頑張りたいという子供の思いや願いを叶えるために、２つの班に分かれて、土日の指導を行うという話も出ている。しかしながら、スポ少の指導者と協会員を兼ねている人も多いことから、時間的な課題はある。ただ、ソフトボール協会の鈴木さんも話していたが、なかなか決まった型にするというのは難しいので、テニス協会の方では、テニスはこんなに楽しいよっていうのを子供に教え、できるだけテニスを愛してもらいたいっていうことも含めて、その

アピールも含めながら活動していきたいと考えている。

・　その他の話の中で、そのような活動を行う上で車での移動が必要となるので、ガソリン代は出ないのかという話も当然出ていた。予算化も含めて難しいと思うが、テニス協会としては、とりあえず色々と取り組み、子供たちにやる気を示すことで、令和７年度のスタートに向けてできることを進めていきたい。

・　このようなテニス協会での方向性については、教育委員会の方から学校の方に事前に伝えていただきたい。

○　とめ漕艇協会　副理事長　　冨士原　勝彦

・　先週、漕艇協会の理事会で話題に上がったことであるが、漕艇協会の競技については、佐沼中学校の１チームであり、ボート部ができてからは３０年ぐらいである。長沼は広く水の上で実施する競技なので、安全確保を考えると人数的な限界がある。漕艇協会の方では、部活の指導まで可能かどうかは未定であるが監視については、協会の方で受ける方向で考えてもいいのではという話になった。ただ、先週の話だと、部活動地域移行については一般的に理解をされてないので、単純に土日の部活についてだけ指導に関わるような認識でしかない。しかしながら、これまでの本検討員会の話を聞くと、部活とは別物であると受け止めている。地域クラブっていうのをつくらなくてはいけないのかが不明確である。

・　漕艇協会の活動のメインとして、長沼の大会、高校の大会や国体、市が主催となる大会の運営であり、実際競技をしてきた人も片手で数えられるぐらいであり、携わるのはできても指導までは難しい状況である。ただ、水の上でやるっていうことで、モーターボートの免許を持っている人が結構いるので、事故がないように見守るっていうぐらいまではやろうという話になってきている。

・　平日にボート部がボートを漕ぐことができるは、夏以外は難しい。春とか秋は、船 の準備で暗くなるので、基本的にボートを漕ぐことができるのは、土日祝日の休日だけになる。そういう状況で平日のみの部活動っていうところに疑問を感じている。また、長期計画についての考え方についても同様である。

（事務局）

→　土日しか練習ができないということしたが、県のガイドラインの方には、繁忙期や大会前の土日の練習や試合等については、その分、平日の練習と振り替えてよいというような方法も可能だと記されている。しかしながら、そこに学校の先生が参加するのかとなると、先生方の理解もいただいた上での参加や、学校としての方針とも関わってくる。

→　部活動と別物っていう話が出ていましたが、全く別物ではなく、連携する際は地域クラブと学校側が連携を取り合って長期の計画を見据えた上で、やっていくのがこの部活動の地域移行の大切な部分になっているので、 必ずこうしなければいけないっていうよりは、ある程度枠を設けた上で、各競技や団体の練習の仕方や大会への参加等、話し合いをしっかりとした上でつくり上げていければと考えている。

○　登米市中学校体育連盟会長（豊里小中校長）　長倉　清敬

・　ソフトボール協会の鈴木さんから、イメージができないという話があった。今の話だと、新たに地域クラブというものを創設しなければならない、あるいはスポーツ協会やスポーツ少年団、地域スポーツクラブ等の既存の団体の受け入れ方を工夫しながらという説明があったが、それについて

	は、今、室長から説明があったように、その種目によって色々と違ってくるので、ケースバイケースで取り組んでいくというような考え方のイメージでよいのか。 （事務局） →　今すぐにやらないのは、委員長の話にあったことを踏まえて、じゃあやるぞとなった際に、委員会として様々な課題をしっかりと洗い出した上で、ガイドラインに詳細の部分まで明記できればと思っているので、各団体の現状を踏まえながら進めていきたい。 ○　登米市中学校体育連盟会長（豊里小中校長）　長倉　清敬 ・　小学校５、６年生のアンケート人気第２位の美術ご意見はないか。 ○　元中学校美術教諭　主任児童委員　及川　英之 ・　美術が２番目になったことに驚いた。自分は中学校の教員だったので、運動が苦手だったが学校の事情でテニスや柔道、それから水泳の顧問もしてきた。そうすると、子供たちに専門家じゃないので、申し訳ないという気持ちがあった。顧問なので一緒にやってきたが、特に卓球については、スポ少の夜の会に参加したりして、少しずつ覚えたりして子供たちと接することができたが、なかなか他の部については、知り合いにお願いをして指導をしてもらった。先ほど、 地域域連携と学校の部活動は別物ではなく連携しながらやっていくんだっていうのが非常に大切ではないかなと思った。 ・　ソフトボール協会の鈴木さんから、誰がどこでどうやって形をつくって進めてくのかという最初の出だしとか軌道に乗せる上で、既存の団体などはよいがそうでない種目については、教育委員会等がそういうハブになる部署をつくることなども考えていただきたい。 ・　美術の方はどうやって子供たちの指導に当たっていったらいいのか現在模索中である。 ○　特定非営利活動法人登米市体育協会　会長　関　壮一 ・　各団体の話を聞いてすばらしい意欲のある言葉を聞き、指導者は確保できるのではないかと感じている。実際のところスポーツ少年団を始め、いろんな方々に指導者研修会等を開催し、指導者としての認識やあり方等を学び、構築していかないと続いていかないと感じている。そういった意味で指導者協会など、その辺を誰か先頭に立って取り組む必要がある。見えてこない部分もたくさんあるので、皆さんご意見いただきながら進めていきたい。 ○　登米市ソフトボール協会　理事長　鈴木　正彰 ・　皆さんの話を聞いて、各競技団体における現時点での取り組みには、違いがあると感じた。ソフトボール協会は、大会の審判員の集まりであり、実際に競技そのものを指導するのは一部であることから各協会によって違いがあると感じている。先ほど教育委員会が話していいた各協会にお願いをするという内容については、様々な対応があると考える。 ・　令和７年度から進めますということが記されているが、全ての競技が一斉にスタート可能かどうかについては非常に疑問なところがある。準備が

	整ったところからスタートするものなのか。ただ、こういうパンフレットをつくれば、全部の家庭に配布するわけであり、全種目について、地域移行になるような捉え方が当然されるかと思われる。全部なのか、準備が整った段階でのスタートなのかを確認したい。 ・　指導者についての懸念もある。現在部活動に参加している外部指導者の方に部活動の地域移行に参加するか聞いてみたところ嫌だと言っていた。今は顧問の先生がいて、大会への参加や練習の手伝い等は問題ない。しかし、地域移行では、例えば土日に大会は引率しなければならない。そういった役割も加わってくる。そうなった際にお金を頂戴するとなれば、そこに対する責任が発生すると思われるがその責任は取れない。また、今先生方が大会に参加している中で勝った負けた等々、いろんな要望も見受けられる。子供たちを楽しませながら成長を願うという指導であればいいが、決してそこだけに留まらない。そうした時に、そこまでやるんだったらできないということであった。指導者を確保するにあたり、実際にどういう問題点があるのかについてはすごく難しいところであり、そういうところまで踏まえた上で進めてほしい。 ・　県の方で人材バンクのシステムをつくっているが登米市でマッチングするのは難しいと思っている。 ・　保護者の経費については、アンケートの中でどのくらいまで出していいのかまでは問われていない。車代や施設費、道具関係等あると思うが、それ全てを保護者が負担することになる。そういう意味で、家庭が出せる金額を把握しておく必要があると感じている。 ○　登米市中学校体育連盟会長（豊里小中校長）　長倉　清敬 ・　経費とか輸送責任、指導者等々の話があった。アンケートでは、子供たち、保護者、それから教職員から聞いているが、指導についてはここにいる代表の皆様が一番ご存じなので、例えば、子供たちの引率等の事例なんかもあれば紹介いただけると事務局も参考になると思われる。サッカー協会はどうか。 ○　登米市サッカー協会　　３種育成部長　尾上　　健 ・　サッカー協会の方では審判も指導も行っている。また、土日の活動の大会引率なども顧問の先生と一緒に関わっている。大会前の合同練習なども実施できているので、サッカーは部活動地域移行の指導者確保は可能であると考える。 ○　登米市陸上競技協会　　会長　　飯塚　敏郎 ・　陸上協会では、現段階で平日に指導をしている。土日の指導は行っていない。平日に練習し、土日の大会等には部活の先生が必ずついてきており、突然地域移行に参加した指導者がアドバイスするという状態では継続性もなく、今の段階で地域移行は難しいと思われる。ただ、協会としてやれることは、各校で部活動に取り組んでいる子供たちを集めて、大会の前日に合同練習会や種目別練習会等々の指導は可能である。 ・　宮城県では、クラブ活動として登録してる団体は４つある。そのクラブというのは会費を払って活動をしており、日本スポーツ協会の専門指導員の資格がないとできないと指導ができない。登米市での資格がある方は２

	名だけである。そのようなことからも、陸上協会としては今の段階で地域移行というのは難しい。専門指導員の資格を取得するにも相当の経費が掛かり、これまで個人負担で取得してきた。そのような部分の補助は計上できるのかを聞きたい。 （事務局） →　費用の面については、受益者負担という方向で進めている。ただ、これについて、まだ決定ではないが県や国ではそういった経費は出しませんということになっているので、厳しい状況である。 →　例えば地域クラブはできないが、今お話あったように、合同練習会や種目別練習会については、土日のどちらかに子供たちが体を動かせる、やりたいスポーツができるという体制もクラブ活動の１つになりうると考える。 ○　登米市スポーツ少年団　本部長　木村　健喜 ・　これまで話を聞く限り、その責任の問題があまりにも大きすぎて、対応しきれないという話が聞かれた。土日の部活の地域域行を進める上で様々な考え方が出てくると思うが、その方向性や考え方を明確にしておかないと、任せられる皆さんが不安に感じてしまう。指導者が土日の活動を受ける時に、どういう視点でこの子供たちを伸ばしていくのか、あるいは何を目指してやっていくのかっていうところを明確にしていく必要がある。そこを怠ると、みんなバラバラの指導方法となってしまい、１０年経った時に、大きな差ができてしまう。指導者についても何十年後に、継続してやってくれるかというところも不明確である。そのようなことのないようにコーディネートする部署を教育委員会に設けたり、地域のスポーツクラブにお金払ってでもコーディネーター役を設けたりする等、専門的な人材がいないと、事故あった時に責任問題も含め、誰に相談したらいいか分からないという話になる。そのようなことも含めて、コーディネーターの設置が今後の部活動の存続に関わってくると考える。 ○　登米市ソフトボール協会　理事長　鈴木　正彰 ・　私は全く同感である。最近はインターネットの中で地域クラブの取組なども載っているが、教育委員会の方では、すでに業務委託する会社は決まっているのか。そういうところと契約をして、指導者をその会社から派遣してもらうというようなシステムを取り入れてところもある。ただ、結構、結構お金が掛かるので難しい面もある。 ○　登米市卓球協会　　会長　門脇　昭雄 ・　先ほど木村さんの話にも関連するが、平日の部活動も土日の活動も学校教育であると考える。平日は先生方が指導し土日は地域の方が携わるということで、互いの連携が必要なのは当然のことであり、その環境をどう構築するかである。指導者の支出面の配慮を実現し、指導資質を高めた方々が携わることが大切である。私も部活動の指導をしてきたが、土日に先生方が活動に携われば、それなりの指導手当が出ている。その経費を国は活用すればよい。 ・　自分は、外部指導者の経験もある。指導報告書を出して、多少ではあるが経費をいただいたという経験もある。教育委員会では、まずは、指導者を把握し指導者登録を促がす。指導をした際は、指導報告書を提出

	して予算措置をしていくとよい。そうしないと、継続的な地域移行のスタイルできないのではないか。ボランティアに頼る時代は終わっており、これからの若い人たちにバトンをうまくつないでいくためにはですね、そういった体制づくりを市全体で行っていくことが何よりも大切ではないかと思われる。 ○　登米市野球協会　　会長　　工藤　初夫 ・　野球協会の現状については、小・中学校はスポーツ少年団には親の会がある。土日は親の会の人たちが一生懸命指導し、子供たちの練習をサポートしている。平日は顧問の先生が見て、土日は地域の指導者が見るというようなくくりにすると、野球のスポーツ少年団は成り立っていかなくなるように感じている。そして、指導者をどうしようかという話であるが、登米市には審判部があり中体連の審判を応援してますし、毎年１回の小学校スポーツ少年団の審判講習では、毎年新しいルールを説明しながら親の会の方に伝達指導も行っている。野球協会としては、部活動地域移行の指導者は必要ないと思っている。野球部に入部するお子さんの親御さんは野球が好きである。ですから、練習や試合など、一緒になって野球を楽しんでいる。先生方には、土日も 一緒に生徒と野球をして、子供と関わり合っていくことが大切である。そのようなことからも部活動の地域移行は必要ないと思っている。 ○　登米市バスケットボール協会　副会長　芳賀　昌幸 ・　今、話を聞いて、団体ごとにいろんな悩みがあることを改めて確認することができた。自分は登米市バスケットボール協会の副会長、中田町ではバスケットボール協会の会長、そして、スポーツ少年団の指導者も行っている。そのような関わりの中で考えていることが、勝利至上主義ではないと思って取り組んでいる。 ・　平日、学校の部活動がどのように運営されているのかよく分からない。そういう中で、ここにいる委員の話が拡散していくと、収束は難しいと思われる。団体ごとに色々な地域移行の形があってよい。そのためには、それぞれの団体であったり、学校の部活動ごとに検討をしたりしていかないと、いつまでも終わらないようなイメージである。 ・　スポ少、クラブチームの登録もあり、また、土日を除くクラブ活動を指導している先生の立場も考慮し、移行に向けた方法を詰めていけば、対応可能と思われる。 ○　登米市中学校体育連盟会長（豊里小中校長）　長倉　清敬 ・　種目によっては重さが実際違うので、種目ごとの話し合いが必要である。また、 子供たちからはアンケートの結果により「求めているものは何なのか」とか「困ってることは何なのか」について、見えてきていると思われる。今日の話の流れから一斉に動くのは難しいという印象を受けた。 ○　登米市小学校長会長（登米小校長）　　秋葉　　徹 ・　多分私だけがスポーツの指導者の資格を持ってなければ、部活動の指導の経験もないので、3 つの立場でお話ししたい。 ・　小学校の校長の立場から、周知文書を含めたアンケートにまずは感謝したい。もうすぐ中学生である小学生の思いを確認することができた。土日

になれば必ずこの地域移行に参加させられて、引っ張り込まれるのではないかという思いを確認することができた。やはり、これから始まろうとしていることを小学校の教員も子供たち分かりやすく説明していく必要があると感じた。

・　親の立場で言うと、アンケートの内容が自由に書かれていると感じた。指導者に対しては、普段から悶々とした思いが記されており、振り回される必要はないが、不安に感じている方々が多いので納得いく形での提示していく必要があると思われる。

・　最後に委員の立場で言うと、それぞれの団体で事情が大きく違うということがよく分かった。走り始めようとしているテニス協会は、どんどん進めていいと考える。無責任な言い方になるが、その結果、成果と課題が見えて、それを参考に議論ができるかもしれない。だからと言って他のスポーツの団体はそれぞれでよいというわけではなく、登米市の地域の団体というところで、足並みをそろえた地域クラブ活動にしていく必要があるので、それについては来年度に様々な意見を出しつつ実際に試していくのはどうかと考えている。

○　登米市剣道連盟　会長　熊谷　敏明

・　これまで日程が合わず、私は本日初めて参加した。剣道連盟は、全日本剣道連盟の下に組織がしっかりしているので、昔から中学校の部活動とスポーツ少年団、そして、その他の剣道連盟の指導者と連携をして取り組んでいる。ですから、市剣道連盟主催で月１回の定例稽古会をしていますし、 審判講習会、それから明確な基準での段審査会、級審査会等もすべてやっている。ですから、その土日あるいは通常の日の夜などもやっていますので、指導能力とかライセンスとか、そういう部分に関しましては、受け皿として、いつでもできる状況である。

・　今日色々と思うのは、いろんなスポーツがあり、その中で学校教育の一環である部活動の土日の部分を国の方で決めたからということで、 地域に移行することが果たしていいことなのか思った。例えば、アンケートの中でも土日までやりたくないっていう意見も相当数ありますし、それから強くなりたいっていう意見もあります。それは強くさせたいっていう親もいれば、そこそこでいいっていう親もいるので、非常に２極化してると感じた。それから、学校の先生方も働き方改革という問題もあり、土日まで仕事をしたくないというような意見も見られた。そのような中で、地域移行によって土日に指導する人は仕事をしてない人なのかというと、その方々も仕事をして、それぞれの会社では働き方改革をしている状況の中、先生たちの土日をなしにして、その人たちにすべて委ねるというのは、果たして 正しい考え方なのかということで疑問が残った。そういう中で、私が今思ったのは、勉強したい人は学習塾などいろいろなところに通っている。、現実問題として土日に部活動の指導を学校ができないのであれば、土日休みにしたらいいのではないか。そして、もっと強くなりたい、もっと高度なスポーツの指導を受けたい人は、お金を払って教えてもらえばいいのかなと。それぐらいに明確に分けてしまうのもいいんじゃないかと考える。

・　学校は土日休みである。昔は、土曜日に授業があった。、それが、今、週休２日制になった時に、その部分の埋め合わせとして、学習塾などが出てきたので、スポーツだけ無理して、地域移行をするのは違うように感じた。その辺も、今後、協議する上で議論していただければ思っている。

○　登米市ソフトボール協会　理事長　鈴木　正彰

・　最後に１つだけ、ちょっと余談なるかと思うが、テレビの中で仙台市では、バスケットボールなどの指導に大学や会社に入って指導していた。登米市の方では、そういう大きな企業や指導してくれる会社などはあるのかお聞きしたい。

（事務局）

→　岩沼とかだったら仙台大学とか、そういったところで実際やっていると いう話は聞いたことがあるが、登米市についてはそのような情報は聞いたことがない。

○　登米市スポーツ少年団　本部長　木村　健喜

・　検討委員会については、今日で終わりなのか。また、来年度の移行準備委員会のメンバーはどうなのか。

（事務局）

→　現時点で検討委員会のメンバーで残っていただく方もいるが、人数を減らす方向で考えている。また、委員の中に PTA の方も入っていないので検討している。任期の方は、２年間委員になっていただいて、継続した話し合いをしていくということで進めていく。

○　登米市スポーツ少年団　本部長　木村　健喜

・　協会の皆さんからは検討委員会で多くの提案や現状を伺った。もし、メンバーが変わるのであれば、これまでの話し合いを踏まえて、自分の方の協会ではどういった地域移行が考えられるのか、もしくは考えられないのか、 こういう条件が整えば少しは協力できるよというようなデータを各団体の皆さんにワンペーパーぐらいにまとめてもらうと、これから方向性を考えていく再に、多くの面が見えてくるのかなと思われる。

（事務局）

→　今回このようにこうに集まられた委員の皆様には、今後もご意見、ご指導をいただきたいなと思っている。今、 木村委員がおっしゃられたように、やはり先ほどから出ている競技ごとによってそれぞれ違うということがあるので、形はどうなるかわからないが、何かしらこう、こちらから連絡をして、指導できる人数はどれくらいかとか、このような活動は可能ですかとかアンケートや書面でご意見をいただき、様々な方向性を協議していくっていうのは可能ですので、ぜひ今後も携わっていただいて、この部活動の地域移行を進めていけたらと思っている。

○　登米市ソフトボール協会　理事長　鈴木　正彰

・　１番最初に出てきたスケジュール表であるが、令和７年度１０月から休日の部活動地域移行を始めるというスケジュールになっているが、これは変えていないのか。

（事務局）

→　そのスケジュールはすべて進めるというわけではなく、できる学校や競

	技から進めるということになっており、その目標は７年度の１０月に設定している。 ○　登米市スポーツ少年団　本部長　木村　健喜 ・　究極の質問であるが、「受け皿がなかったら学校で部活続けますか」って聞かれたら何と答えるのか。 （事務局） →　究極の話ということで、現在、文科省の方からは令和７年度から段階的に進めなさいと示されており、それが令和７年度から何年度まで段階的に進めなさいというような指示はない。そのような状況の中で地域移行ができない場合については、土日は部活やりませんというような形になる可能性もありうる。 →　以前、教育長が話していたが、都市部の教育委員会では土日部活動やらないよというようなことを言えば、それでも済むが登米市については、そうはいかない。やはり子供たちのことを一番に考えて、何とかできるところから練習でもいいので、 土日に様々な活動の場を設けたいということで進めており、そういった点をご理解いただきたい。なお、他の市町村ではすでに 平日は３日、土日は部活動を行わないという宣言をしているところもある。また、平日も部活動を行わず全部地域クラブだよというような事例も出てきている。そのようなことが、本当にいいことなのか悪いことなのかというのは、その市町村ごとの判断になるので私としては、まずこのことを考えながら、そして協力をいただきながら、できるだけ子供たちが土日に活動できる場所をつくっていきたいというのが今回の地域移行を目指すところと捉えている。 ○　登米市ソフトボール協会　理事長　鈴木　正彰 ・　全国には学校部活動を残さなきゃダメだと宣言してるところもあるんで、もちろん休日含めて地域移行だというところもあります。登米市については、登米市らしさというところも含めて選択肢が本当に地域移行しかないのか検討をしていただきたい。 ○　登米市陸上競技協会　　会長　　飯塚　敏郎 ・　参考までに宮城県でトップレベルの陸上の顧問の先生は、大会がない限り土日は必ず休みにしている。 ○　登米市中学校体育連盟会長（豊里小中校長）　長倉　清敬 ・　そもそも地域移行のコンセプトは、自分の学校にやりたい部活動が消滅してしまい、その活動の場を保障するということなので、そちらの方を保証できる形で進めていただけるとありがたい。 ６　閉会の挨拶　　副会長 ７　閉会